

生物学者は伊豆半島衝突説を覆せるか

井口 豊

〒394-0005 長野県岡谷市山下町 1-10-6 生物科学研究所

e-mail: bio.iguchi@gmail.com

Gekkan-mushi 31–32 (1992)

Can biologists disapprove the hypothesis of the collision of the Izu arc?

Yutaka Iguchi

Laboratory of Biology, Yamashita-cho 1-10-6, Okaya City, Nagano Prefecture, 394-0005, Japan

論文要旨

問題の背景

プレートテクトニクスに基づく伊豆半島衝突説に対して、黒沢(1989, 1990)が、生物地理学的観点から反論した。本論文は、それに対する反論である。

黒澤の矛盾点

黒沢(1989, 1990)の主張の矛盾点は、主として以下の2点である。

(1) 伊豆半島が古伊豆島としてフィリピン海にあったならば、日本列島と異なる昆虫相が成立していたはずであるが、現在の伊豆半島にそのような事実は見られない。

(2) 関東地方で江古田層が形成された頃、古伊豆半島が存在したと考えられ、江古田層から寒冷系の化石が産出するのは、古伊豆半島の存在によって黒潮の流れが変わっていたためと考えられる。

黒沢への反論

黒沢(1989, 1990)の指摘に対する筆者の反論は、以下の通りである。

(1) 伊豆地塊の移動と、その陸化を区別していないための誤解がある。たとえ、かつて伊豆地塊が本州の数百 km 南方にあったとしても、陸化したのが本州近くなれば、現在の伊豆半島とそれ以外の本州の昆虫相が同じでも不思議ではない。

(2) 江古田層の形成時期は、西日本でも寒冷であり、古伊豆半島の存在によって黒潮の流れが変わっていたためとは言えない。江古田層が形成されたのは、今から 1–3 万年前だが、伊豆半島が衝突したと考えられるのは、50–150 年前である。両者の時期は全く異なり、たとえ古伊豆半島が存在したとしても、それが伊豆半島衝突説を否定する根拠とはなりえない。

参考文献

黒沢良彦 (1989) 穿孔虫の移動分散. 科学朝日 49(5): 12–17.

黒沢良彦 (1990) 伊豆諸島こ昆虫相. 日本の生物 4(2): 23-28.
